

## 基本方針 2 公私の切磋琢磨により高校の教育力を向上させます

### (2) 活力あふれる府立高校づくりをすすめます

#### 基本的方向

- グローバル社会で活躍できる人材の育成やセーフティネットの整備など社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実をすすめます。
- キャリア教育や不登校・中途退学への対応など生徒一人ひとりの自立を支える教育を充実します。
- 計画的な施設整備や ICT 環境の充実により、府立高校の教育環境の整備をすすめます。
- 府立高校の新たな特色に応じて、中学生にとってより一層公平でわかりやすい入学者選抜制度とします。
- 各校の教育内容の充実を図るとともに、将来の生徒数等を勘案した効果的かつ効率的な学校配置をすすめます。

#### 後期事業計画の視点

前期事業計画に基づき、社会の変化やニーズに応じた活力ある府立高校づくりをすすめた結果、グローバルリーダーズハイスクールにおいて大学進学、TOEFL iBT 等外部検定試験の実績が上がるなど、取組みの成果が見られる。また、基礎からの学び直しを行い、社会で活躍する力を身に付けるエンパワメントスクールについては、生徒の欠席者数や遅刻者数が大きく減少するなど、着実に取組みの成果をあげている。

後期事業計画期間においては、子どもがこれからの変化の激しい時代を生き抜く力を身に付けることができるよう、各府立高校で特色ある教育をさらに充実させる必要がある。

また、置かれている環境にかかわらず、生徒が社会的経済的に自立して生きていく力を身に付けることができるよう、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門人材の活用による支援を充実させており、府立高校全日制課程における生徒の中退率が改善傾向にあるなどの成果も表れ始めている。生徒一人ひとりの自立を支える教育のさらなる充実に向け、課題を抱える生徒への支援などの取組みをすすめていくことが求められている。

## 実現をめざす主な指標

指 標	現 状 値	目 標 値
学校教育自己診断における 生徒の学校生活満足度	70%を上回った学校 132校/184校 (2016(平成28)年度)	増加させる (2022年度)
府立高校卒業者の就職率(就 職者の就職希望者に対する 割合)	95.1%(※全国:98.0%) (2016(平成28)年度)	全国水準をめざす (2022年度)
府立高校全日制課程の生徒 の中退率	1.3%(※全国:0.8%) (2016(平成28)年度)	全国水準をめざす (2022年度)
府立高校における不登校生 徒数の千人率	35.2人(※全国:16.4人) (2016(平成28)年度)	全国水準をめざす (2022年度)

## ◇グローバルリーダーズハイスクールの充実

## 【事業概要】

2018（平成30）年度にグローバルリーダーズハイスクール10校すべてを文理学科にし、大学等と連携しながら課題研究の充実を図るなどさらなるパフォーマンスの向上をめざす。また、「確かな学力の育成」「豊かな人間性の涵養」「高い志と進路実現」を柱とした海外スタディツアー、文武両道を実践する活発な部活動、各界リーダーによる講演会など、特色ある取組みを引き続き実施し、知識を基盤とするこれからのグローバル社会をリードする人材を育成する。

さらに、毎年度、外部有識者によるパフォーマンス評価を行い、検証・改善のPDCAサイクルによる事業展開を行うとともに、3年に一度、総合的評価に基づき、指定校を再検討し、取組みの一層の活性化を図る。

## 【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバルリーダーズハイスクールにおける現役での国公立大学進学率 38.2% (2016(平成28)年度)</li> <li>国際科学オリンピックなど、国際大会(コンクール、コンテストなど)への出場者数 2名 (2016(平成28)年度)</li> <li>スーパーグローバル大学(トップ型)指定校及びグローバルサイエンスキャンパス採択校(合計21大学)への進学者数(現役生+既卒生(一年浪人まで)) 1,190人 (2016(平成28)年度)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバルリーダーズハイスクールにおける現役での国公立大学進学率 40% (2022年度)</li> <li>国際科学オリンピックなど、国際大会(コンクール、コンテストなど)への出場者数 5名 (2022年度)</li> <li>スーパーグローバル大学(トップ型)指定校及びグローバルサイエンスキャンパス採択校(合計21大学)への進学者数(現役生+既卒生(一年浪人まで)) 1,300人 (2022年度)</li> </ul>

## ◇国際関係学科の充実

### 【事業概要】

豊かな語学力、コミュニケーション能力、論理的思考力や健全な批判力を身に付け、国際的に活躍できる「グローバル人材」を育成するため、「国際科（グローバル科）」において特色ある学校設定科目を開講し、論理的思考力や批判的思考力、発想力の育成や英語運用能力の向上をめざした取組みをすすめる。

また、国際教養科及び国際文化科では、語学力の向上はもとより、世界の国の文化や伝統を理解し尊重する態度、コミュニケーション能力やプレゼンテーション力の育成などの取組みをすすめる。

今後、国際関係学科それぞれの優れたところをさらに生かした新たな方向性について、学科名の統一や教育内容の充実を含めて検討する。

## ◇新たな専門コースの設置や改編

### 【事業概要】

生徒の多様な学習と進路選択を実現するため、社会のニーズに対応した新たな専門コースについて設置や改編の必要性を検討する。

## ◇工科高校の充実

### 【事業概要】

引き続き、工科高校を高大連携重点型、実践的技能養成重点型、地域産業連携重点型に指定し、各校の強みを生かした人材育成をすすめ、府におけるものづくり教育の活性化に向けて教育内容の一層の充実を図る。教育内容の充実にあたっては、最先端の技術の習得と安全性の確保を図るため、老朽化した施設・設備の計画的な更新や新規整備をすすめる。

さらに、企業実習や技術者の招聘を推進するとともに、産業界・大学と協力・連携した企業への教員派遣研修を行う。

### 【事業目標】

現状	目標
・工科高校2・3年在籍総生徒数に対する製造現場で有効な国家資格・公的資格・民間資格の取得総件数の割合 1.11 件/人 (2016 (平成 28) 年度)	・工科高校2・3年在籍総生徒数に対する製造現場で有効な国家資格・公的資格・民間資格の取得総件数の割合 1.20 件/人 (2022 年度)
・進学専科の理工系大学進学率 57.3% (2016 (平成 28) 年度)	・進学専科の理工系大学進学率 65.0% (2022 年度)

## ◇農業高校の充実

### 【事業概要】

都市近郊における農業教育の特性を踏まえ、農業の6次産業化や都市緑化等に対応するため、企業連携等による教育内容の充実と、老朽化した施設・設備の整備をすすめる。

また、進学等の進路希望に対応するため、大学等との連携や土曜日の教育活動の推進に取り組む。

## ◇大阪府教育センター附属高等学校の充実

### 【事業概要】

公立大学法人大阪府立大学等の外部機関との連携のもと、学校設定教科の科目「探究ナビ」を中心に、教科横断的な探究活動や、人としてのあり方・生き方を探究するキャリア教育の充実など、教育内容の深化を図るとともに、その評価手法について研究する。

また、時代の先端をいく実践・研究を展開することにより、教員の指導力の向上を図るとともに、その成果を府内に普及させることで、府内全体の教育活動の充実をめざす。

## ◇エンパワメントスクールの充実

### 【事業概要】

これまで取り組んできた学び直しの支援や社会で活躍する力をはぐくむ教育のより一層の充実を図るため、教員の授業力向上のための研修や情報交換会を行う。

また、専門人材を活用し、生徒の進路実現を支援するとともに、生活面での課題を抱える生徒の就学を支援する。

### 【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none"><li>・進路決定率 ー</li></ul> <p>※2016（平成28）年度時点では、エンパワメントスクール改編後の卒業実績なし。</p> <p>【参考】開校済の6校の平均進路決定率 84.2% （2016（平成28）年度）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・欠席者数及び遅刻者数の減少率 （改編前年度と比較対象年度の1年次生についての減少率）</li></ul> <p>欠席：47.8%（各校平均） 遅刻：55.4%（各校平均） （2016（平成28）年度）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学校生活満足度 63.4%（各校平均） （2016（平成28）年度）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・進路決定率 各学校 95%以上 （2022年度）</li></ul> <ul style="list-style-type: none"><li>・欠席者数及び遅刻者数の減少率 （改編前年度と比較対象年度の1年次生についての減少率）</li></ul> <p>欠席：60%以上（各校平均） 遅刻：60%以上（各校平均） （2022年度）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学校生活満足度 各学校 80%以上 （2022年度）</li></ul>

## ◇通信制の課程の充実

### 【事業概要】

桃谷高校通信制の課程（昼間部）における志願倍率が高い水準で推移していることや、私立の通信制高校の生徒数も近年増加傾向にあることから、今後の私立の通信制高校の動向も見極めながら、府立の通信制高校のあり方について検討し、志願者のニーズに十分応えられるよう充実を図る。

## ◇教員相互の授業見学や生徒の授業アンケートを活用した授業改善

### 【事業概要】

府立高校において、「わかる授業」「魅力ある授業」を実現し、生徒の学力向上を図るため、教員が相互に授業見学や研究授業を行うとともに、生徒からの授業アンケートを効果的に活用する。研究協議やアンケート結果による授業における課題の洗い出し、課題に対する改善方策の策定、改善状況の把握・検証を行うなど、授業改善に向けた取組みを組織的にすすめる。

また、各校の授業改善に向けた取組みに対して、府教育センターが校内研修の支援を実施し、分析結果の活用について指導・助言を行う。

## ◇「デュアル実習」によるキャリア教育の推進

## 【事業概要】

「社会人基礎力」を身に付け、社会の構成員として必要な力を備えた人材を育成するため、地域の事業所等で、週1日全日の職業体験を行うことにより、仕事や社会の仕組みなどを学ぶ「デュアル実習」を実施する。

## ◇「夢や志をはぐくむ教育」の推進

## 【事業概要】

府立高校において、「志（こころざし）学」を基礎として、社会参加のための知識やスキル・価値観を育成する取組みを行い、夢や志を持ち、よき社会人として社会の発展に寄与する態度をはぐくむ。

## ◇中途退学防止・不登校減少の取組み【一部再掲】

### 【事業概要】

#### ☞府立高校における中退防止対策・不登校減少の取組みの推進

中途退学の防止や不登校の減少を図るため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用した教育相談体制の充実を図る。

また、中途退学の課題の大きな高校において、中高連携の窓口や校内組織の中核を担う中退防止コーディネーターを指名し、全教職員による指導体制を確立するとともに、中退防止コーディネーターのネットワーク化を図り、各校の課題や効果的な取組みに関する情報の共有化を図る。とりわけ中退率の高い高校を重点取組校として指定し、個別に分析を行い、改善の方策を構築する。

さらに、すべての府立高校において、中退防止や不登校の減少に効果のあった取組みをまとめた冊子「中退の未然防止のために」（改訂版）の活用を図る。

#### ☞課題を抱える生徒への支援

貧困をはじめとする様々な課題を抱える生徒が、能力や可能性を伸ばすことができるよう、学校の特色に応じた外部人材等を活用した支援を行う。

#### ☞府教育センターにおける相談機能の充実や大阪府高等学校教育支援センターの充実

府教育センターにおける学校教育相談機能の充実を図るとともに、大阪府高等学校教育支援センターにおいて、心理的又は情緒的な原因により不登校状態にある府内の高校に通う生徒に対し、在籍校との連携のもと学校復帰をめざした学習支援や心理支援等を行う。

（「基本方針2（1）：公私が力を合わせて高校の教育力向上をすすめます」参照）

### 【事業目標】

現状	目標
・府立高校における不登校児童・生徒数の千人率 高：35.2人（※全国：16.4人） （2016（平成28）年度）	・府立高校における不登校児童・生徒数の千人率 全国水準をめざす （2022年度）
・中退防止コーディネーターの配置 34校 （2017（平成29）年度）	・中途退学が多い高校に対して、中退防止コーディネーターを配置 （2018（平成30）年度から）
・府立高校にスクールソーシャルワーカーを配置 21校 （2017（平成29）年度）	・スクールソーシャルワーカーによる教育相談体制の充実 （2022年度）



## ◇障がいのある生徒の高校生活支援の充実

### 【事業概要】

障がいのある生徒の府立高校への入学が増加する中、スクールカウンセラーや看護師など、専門的知識を有する支援員（エキスパート支援員）や看護師を学校に配置し、直接障がいのある生徒の心身のケアや支援を行うほか、教員に対して障がいのある生徒の対応・支援のための助言やコンサルテーションを行う。

また、学校生活支援員（介助員、学習支援員）を配置し、生徒の生活介助やメモ取りなどの学習支援を行う。

さらに、府立高校において、高校生活支援カードを活用し、障がいのある生徒の状況や保護者のニーズを把握し、生徒、保護者、中学校の想いを受け止め、高校卒業後の社会的自立に向けて学校生活を送れるよう適切な指導・支援の充実を図る。

### 【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none"><li>・全府立高校にスクールカウンセラーを配置</li><li>・学校生活支援員（介助員） 29 校</li><li>・学校生活支援員（学習支援員） 38 校</li></ul> <p>（いずれについても 2017（平成 29）年度）</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・スクールカウンセラーや介助員、学習支援員を希望する全府立高校に配置</li></ul> <p>（2018（平成 30）年度から）</p>
<ul style="list-style-type: none"><li>・障がいにより配慮を要する生徒が在籍する府立高校のうち、「個別の教育支援計画」を作成している学校の割合 86.8%</li></ul> <p>（2016（平成 28）年度）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・障がいにより配慮を要する生徒が在籍する府立高校のうち、「個別の指導計画」を作成している学校の割合 86.3%</li></ul> <p>（2016（平成 28）年度）</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・障がいにより配慮を要する生徒が在籍する府立高校のうち、「個別の教育支援計画」を作成している学校の割合 100%をめざす</li></ul> <p>（2022 年度）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・障がいにより配慮を要する生徒が在籍する府立高校のうち、「個別の指導計画」を作成している学校の割合 100%をめざす</li></ul> <p>（2022 年度）</p>

## ◇長期入院している生徒等への学習支援

### 【事業概要】

修学的意思を持ち学習意欲があるにもかかわらず、病気やけがにより長期間登校できない府立高校生に対して、在籍校の教員が病院へ出向き状況に応じた授業を行うことにより、生徒への学習支援を行う。

また、ICT を活用して病院や在宅等から学校の授業に双方向の通信で参加することができる遠隔授業サポートシステムを運用することにより、学習における生徒の負担を軽減し、登校（復帰）後も学業にスムーズに参加できるよう支援を行う。

## ◇学校運営協議会による保護者・地域ニーズの反映【再掲】

## 【事業概要】

全府立学校に保護者、地域の住民、学校の運営に資する活動を行う者、学識経験者、その他の関係者からなる学校運営協議会を設置し、学校運営の基本的な方針の承認やその意見を踏まえた学校経営計画の策定及び学校評価を行うことにより、保護者や地域の住民との連携協力と学校運営への参加を促進し、そのニーズを学校教育に反映する。

また、府立学校の教員の授業その他の教育活動に関する保護者からの意見の申し出に関し、学校運営協議会において調査審議し、学校に対し適切な対応を意見具申する。

（「基本方針 7：学校の組織力向上と開かれた学校づくりをすすめます」参照）

## ◇専門的知識を有する社会人の積極的な活用

## 【事業概要】

教育内容の多様化と特色ある学校づくりの一環として、文化部活動等において、地域や社会の各界で活躍する優れた技能や専門的な知識を有する社会人の活用を図るとともに、演奏家による技術指導など、教員では担当できない授業において、教員免許状を持たない外部人材の活用を図る。

## ◇中高一貫教育の取組み

## 【事業概要】

2017（平成 29）年4月に開校した府立富田林中学校・高等学校において、6年間を通じた指導の一貫性や系統性を持った教育を行い、「グローバルな視野とコミュニケーション力」、「論理的思考力と課題発見・解決能力」、「社会貢献意識と地域愛」の3つの資質を育成する。

また、連携型中高一貫教育についても、これまでの取組みをもとに、効果的な教育をすすめていく。

## ◇高大連携の推進

### 【事業概要】

公立大学法人大阪府立大学をはじめ、包括連携協定を締結している大学との連携を活用し、府立高校全体の教育の質の向上につなげる。

その際、生徒が高等教育機関で学ぶことへの興味・関心や進学意欲を高められるよう、大学キャンパスでの学習機会や大学からの出前授業の活用をすすめる。

### 【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none"><li>府教育委員会との包括協定を締結している大学 25 大学 (2017 (平成 29) 年度)</li><li>高大連携実施校の割合 79.9% (2016 (平成 28) 年度)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>府教育委員会との包括協定を締結している大学 30 大学 (2022 年度)</li><li>高大連携実施校の割合 85.0% (2022 年度)</li></ul>

## ◇府立学校施設の耐震性能向上【再掲】

## 【事業概要】

府立学校については、施設・設備の既存ストックを最大限に有効活用するために、2018（平成30）年度末までに非構造部材の耐震対策を実施する。

（「基本方針 8：安全で安心な学びの場をつくります」参照）

## ◇府立学校の老朽化対策と空調設備等の整備の推進【再掲】

## 【事業概要】

府立学校の校舎等については、築年数が40年を超えるものが5割以上を占めるなど、老朽化が深刻な状況であることから、「府立学校施設整備方針」に基づき個別施設計画を2018（平成30）年度に作成することとしており、コストの低減化を図りつつ、計画的に改修・改築をすすめる。

また、府立学校の空調設備を計画的に更新するとともに、バリアフリー化やトイレ設備の改修に取り組むなど、府立学校の教育環境の改善を図る。特に、トイレ設備の改修については、2019年度末までに、未改修の府立高校のトイレ改修を完了する。

（「基本方針 8：安全で安心な学びの場をつくります」参照）

## ◇府立学校の ICT 環境の充実による「わかる授業」の実現【一部再掲】

## 【事業概要】

教科指導等における ICT 活用及び ICT 環境整備をすすめることで、生徒の学習意欲を高め、「わかる授業」の実践を図る。

また、府立学校において、生徒の成績や出欠管理、教職員の出勤や給与情報の管理など、校務の ICT 化を実現した「統合 ICT ネットワーク」について、サーバやパソコンの更新を行うとともに学校情報ネットワークとの連携を図るなど、より安全で使いやすい ICT 環境の実現を図る。

（「基本方針 7：学校の組織力向上と開かれた学校づくりをすすめます」参照）

## 重点取組⑪

### 公平でわかりやすい入学者選抜の実施

#### ◇調査書評定の公平性の確保

##### 【事業概要】

府立高校の入学者選抜に用いる調査書評定の公平性の確保に向けて、府と市町村が協力して、各校における評価について検証し改善をすすめるなど、各校における評定が府全体の学習評価の状況に照らして適正であることを確認するための支援を行う。

#### ◇中学校における進路指導の充実

##### 【事業概要】

各地区の進路指導の核となる中学校を中心とした、進路指導情報の蓄積と情報共有により、引き続き中学校における進路指導の充実を図る。

## 重点取組⑫

### 活力ある学校づくりをめざした府立高校の再編整備

#### ◇府立高校の再編整備の計画的な推進

##### 【事業概要】

今後の生徒数の減少を見据えた「府立高等学校再編整備方針」に基づいて行ってきたこれまでの取組みを検証しつつ、社会のニーズを踏まえた教育内容の充実と活力ある学校づくりをめざして、引き続き府立高校の再編整備をすすめる。